

第18回尼崎市動物愛護管理推進協議会議事要旨

1 日 時

平成27年11月26日（木） 午後1時半から午後3時まで

2 場 所

尼崎市保健所精神保健相談室

3 出席者

(1) 委 員 8名（敬称略）

植村興、三田一三、瀬戸口敬幸、山本純子、平川達夫、平井三和子、村田國広、福井進

(2) 事務局 3名

宮永生活衛生課長、大平動物愛護センター所長、林生活衛生課動物愛護担当係長

4 議事の概要

(1) 前回欠席した平川委員、福井委員が自己紹介を行った。

(2) 「第17回会議議事要旨(案)」について事務局から説明があり、了承された。

(3) 協議事項について

委員から提起された議題について、事務局から資料3に基づいて説明が行なわれ、その後意見交換が行われた。

議題1

「尼崎市での地域猫活動（TNR）を社会福祉協議会の役員、各町会の会長・副会長に対し、動物愛護対策として講習会を開催し参加を求める。」

<意見>

- ・フンの後始末やトイレの設置等、やるべき事を行ってから市の補助金等を受け
る事を考えていくべきだと思う。単にえさやり～TNRだけすればよいのでは
ない。
- ・ボランティアだけでは立場が弱い。市が後ろ盾になってほしい。
- ・TNR活動と地域猫活動の違いをはっきりとさせておくべきである。
- ・センターとしてこの提案については検討していきたい。しかし、TNRに特化
した講習会を開催することは難しいと思うので、会議等の中での短い時間をも
らって説明できないかを考えたい。

議題 2

「野良猫の去勢不妊手術の助成金の取り扱いについて」

〈意見〉

- ・地域で市から補助金が出ると説明をしてTNRをした後、枠がないので助成が受けられなかったケースがあった。地域枠を設定してほしい。
- ・H19～H23まで一般予算100万円で、雌猫のみ対象に行ってきた。基金から拡充して、H24は計170万円、H25～27は計200万円の予算で行ってきた。(H27からは雄猫も対象)申請方法として5期に分ける形をとっていたため4、5期目ではすぐに枠が埋まってしまい助成が受けられないケースがあった。公平性もあり地域に対する枠を別に設定する事は考えていない。H28は増額と申請方法の変更を検討したい。

議題 3

「引き取り、譲渡、負傷動物の取り扱いについて」

〈意見〉

- ・ガイドライン等の作成してはどうか。
- ・負傷動物については資料8の環境省告示に基づいて、獣医師が判断して行っている。
- ・センターでも治療対応できるように薬を備えておいてほしい。⇒ 予算の範囲内で、薬資材の配置を考えたい。

議題 4

「警察との連携について。協議会に参加してもらうか、動物愛護センター、警察、獣医師会、動物愛護団体、動物愛護推進員による連携会の設定」

〈意見〉

- ・署によって取り扱いが異なると聞くとある。⇒ 収容期間の違いはある。住宅に近接している署については、犬の鳴き声の迷惑もあるので短くなる傾向がある。
- ・センターと警察の連携に関しては、動物の情報を市内各署に加えて近接する伊丹、西宮、豊中の警察署にも送っている。
- ・虐待の案件は生活安全課が取り扱っている。変死のケースでは、センターを介して開業獣医師会と連携し、獣医師に検死してもらうこともある。
- ・警察に会議参加を打診する。

以 上